神河町議会のあり方ゼミナール（第5日目）次第

日時　令和7年1月11日
場所　役場３階第３会議室

１ 開　　会

２ ワークショップ「ゼミナール発表会に向けて」
　コーディネーター　兵庫県地域再生アドバイザー
　　合同会社人・まち・住まい研究所
　　代表社員　浅　見　雅　之　氏

３ 閉　　会

議会ホームページであり方ゼミナールの取組を公開中！
ぜひご覧ください！

あり方ゼミ HP	1日目 HP	２日目 HP	3日目 HP	4日目 HP

1．立候補や議員活動の準備や、議員適性に関すること

① 議員適性や選挙準備に関するもの	議員となる適性検査があれば受けてみたい	議員としてやっていけるかを自分で判断する基準がないので、自己評価が難しい
		どのような資質や能力が求められるのかが不明瞭で、自分が適しているのか分からない
	選挙の事を何でも知っている人がいてほしい	公職選挙法や選挙運動ルールが細かく複雑でハードルが高いと感じる人が多い
		立候補した経験のある人がおらず実践的なアドバイスを得る機会がない人が多い
	公職選挙法について教えてほしい	罰則のある法律ゆえに、知らずに失敗することをおそれる人も多い
		法律は専門用語も多いで独学だけでは理解が追いつかない人が多い
② スキルアップや知識向上に関するもの	勉強会を開いて、議員になる人への知識を教えてほしい	議会の仕組みや行政との連携を知らないと活動が円滑にできないのではと考える
		まとまった形で情報が得られる場があると効率が良いが、実際にそんな機会があるのか分からない
	選挙のノウハウを伝授してほしい	選挙に関わった経験がない人は、一から学ばなければならず。どう学べばいいかも分からない
		地域によって違う具体的な“地元ならでは”のノウハウが必要なことがあるのかもしれない
	スキルアップのためのセミナー等を開催してほしい	議員になるまでだけでなく、なってからも学び続ける必要があると思うが、どう学べばいいか
		議員間でも知識・スキルには差がある。全員のスキルをある程度揃える必要があるのではないか
	議員を目指す者に選挙、議会、行政についての講義をしてほしい	議会や選挙について体系立てて知る機会は少ないし、学校で教わることもない
		“自分でも議員活動ができる”と考えられるようになれば、多くの人が政治に参画できるようになる
③ 議員候補者の確保や後継者育成に関するもの	選挙活動が１日で終わらないよう（無選挙とならないよう）議員候補を確保したい	より多くの候補者が現れれば、町内での行政・政治に関する議論が活発化する可能性がある
		立候補者がいないと行政監視や提案が不十分になりがち。議員の能力低下にもつながる
	後継者づくり→世襲や各種団体関係者などだけでなく様々な方をターゲットに	特定の血縁や団体関係だけでなく、多様な背景の人材が集まらないと多角的な視点が生まれない。
		議員の傾向が固定化すると、若い世代や女性が入る余地がなくなる。幅広い人材育成が必要

2．議員の収入、報酬と働き方に関すること

① 選挙や議員活動にかかるコストへの不安	選挙にかかる費用を全額負担して欲しい	選挙費用が大きな出費となり、普通の生活基盤では負担しきれず、このため立候補をためらう人は多い
		資金のある人だけが立候補しやすい環境というのは、公平な選挙とは言い難く、誰でも立候補できるべき
	出馬の時の資金が用意できないので全額負担してほしい	資金集めの方法や銀行融資が難しいような、自己資金のない人でも政治参加できる制度が求められている
		お金がなくても立候補できないと特定の層に限られた議会になり、社会の多様性を議会に反映させられない
	議員報酬に比べて議員活動費や選挙費用がかかるため、収入と支出が釣り合ってない	お金がなくても立候補できないと特定の層に限られた議会になり、社会の多様性を議会に反映させられない
		公費や手当がどれくらいあって、その範囲内でどこまでのことができるか分からないので不安
② 議員報酬や収入に関する要望	議員報酬をもっとあげていただかないとできません	本業を辞め議員活動にフルコミットするなら最低限の保障が必要。ある程度の収入は必要。
		住民の声を代弁したり、大きな影響力を持つ責任の重さに見合った報酬が必要
	議員だけの収入で生活していけるお給料が必要です	議員報酬で家計が成り立たないから副業をしないといけないとなると、議会活動に集中しにくい。専業で暮らせる所得が必要
	手取り 30 万以上欲しい	大都市圏ではある程度の報酬が期待できるが、地方は格段に報酬が低い
		扶養家族がいると、少なくとも月に 30 万円程度はないと生活が厳しい
	二元代表制というなら町長と同等の報酬が必要ではないか	二元代表制で町長と並ぶ存在だとされているのに報酬差が大きいのはおかしいのではないか
		町長をチェックし、町政を監視するという役割の大きさを考えれば町長と同等の報酬が必要ではないか
③ 働き方や休暇制度に関するもの	長期休暇をとれるようにして欲しい	激務で過労やストレスがたまりやすく、定期的に長期休暇を取れないとモチベーションが保てない
		一般的な仕事では長期休暇が取りやすい企業も増えてきているし、議員にも柔軟な休暇制度を求めたい
	確実な休日が欲しい	公務や行事、地域要望対応などで休日が不透明になりがち。働き方改革的にもしっかり休めるようにすべき
		族との時間は大切。休日が明確であれば、家族や自身のプライベートを大事にできる
	仕事を辞めなければならない時にスムーズに仕事に再復帰できるよう約束、決まりをつくる	議員活動に専念するために仕事をやめる必要。落選や任期後に元の職場に復帰できると挑戦しやすい
		政治参加のためにキャリアを断念したり、ブランクが生じることで再就職難に。これが社会的な損失
④ 選挙に落選した場合のサポート	落選した場合は次の仕事が見つかるまでの収入を補償してほしい	落選後すぐに生活費をまかなえない不安が大きいことが立候補の障害になっている
		政治にチャレンジする人を増やすにはリスクを減らす制度が有効。失業保険のような仕組みがあるといい
	選挙に落選した場合、復職できるようにしてほしい	一度辞めた職場に戻れないと挑戦を妨げることになる。復職を保障すれば踏み出しやすくなる
		落選した人が地域で活躍できる場所を確保することで、地域の人材流出を防ぐべき

3．議員となった時の家族や生活への影響に関すること

① 家族のサポートや負担軽減に関するもの	家族、親戚、地域の方からの心からの応援、協力がないと難しい	選挙運動や議員活動は家族や地域の協力が欠かせない場面が多い。周囲の支えがないと精神的にも続かない
		家族や近隣住民まで選挙活動に巻き込まれる。協力を得られないとトラブルに発展する恐れもある
	反対する家族、親族を説得してほしい	政治や立候補に対する価値観の違いで、家族と意見がぶつかることがある。仲介やサポートがあれば助かる
		家族が議員活動の実際を知らず、ネガティブな印象を持っている。専門家や第3者から丁寧な説明があるとよい
	家族には迷惑をかけないでほしい	議員本人以外にも、家族の生活や名前が公に取り上げられる。家族への負担や迷惑を最小化したい
		家族にまで嫌がらせが及ぶ事例も。政治活動と家族の生活を切り離す仕組みが必要
	家族に手当が欲しい	選挙期間や公務などで家族への負担が大きい。時間的・精神的サポートとして手当の支給が必要ではないか
		家族が秘書的サポートをすることもある。家族も一緒に公務を担っているならば手当が必要ではないか
② 子育てや家庭生活への配慮	子どもを預けたりした場合の子ども手当などあれば有難い	議員活動による拘束時間増で、保育所やシッターの利用費が上がる。金銭的負担を補助してもらえれば続けやすい
		子育て世代が政治参加しやすい環境がなければ若い議員は増えない。支援制度が必要という認識
	子連れでの議会への参加を認めてもらいたい	子どもを預ける場所や時間が確保できないときがある。議会に子どもを同伴できれば柔軟に活動できる
		子育てしながら議員活動をするロールモデルを見せることで、若い世代や女性の議員参画を促したい
	入学式や卒業式など、子どもの行事には優先して出席できるようにしてほしい	子どもの成長の節目にはしっかり参加したい。公務と重なってしまう場合でも配慮があると助かる
		議員が家族優先で動けば住民に向けて“子育てに理解ある政治”を示せる。その姿勢が地域にとってプラスになる
	家政婦とベビーシッターをつけてもらいたい	議員活動に専念するには、家事や子育てを助ける人材が必要。サポートがあることで議員を継続しやすくなる
		家政婦やベビーシッターを雇いたくても、そこにかかる費用がネック。公的支援がないと難しいという背景

４．議員活動に伴う社会的影響や心配事に関すること

① 議員活動への周囲の目線や支援	私に対する悪口は一切なし！リスペクトあるのみとなってほしい	SNS などで個人攻撃を受けるケースが増加。ネガティブキャンペーンに疲弊するより建設的な議論を求める
		政治の対立が激しくなるほど人格否定に発展しがち。『批判ではなくリスペクトを前提に話し合う』環境が欲しい
	「議員なんだから」という目で見ないでほしい	議員である以前に一個人として生活している。公務以外でも“議員だから…”と求められるのは負担が大きい
		“議員なんだから完璧でいて当然”と厳しく見られがち。普通の市民の延長線上にいる存在と認識してほしい
	町民と定期的に対話できる場づくりをしてほしい	中継等では議員がどんな活動をしているのかイメージしにくい。対話の機会を増やし有権者の理解と信頼を得たい
		議員が住民の声を聞く機会が少ないと、本来の課題や要望を把握できない。定期的に会える場が必要
② 過疎地や社会全体への影響	過疎地からの議員の人選、過疎地への予算の配分をしてもらいたい	過疎地域ほど議員候補が出にくい。結果、予算配分も手薄に。人材育成と予算確保が同時に必要ではないか
		過疎地の生活や課題は実際に住んでいる人しかわからないので、当事者が議会にいることが必要
	若い議員が増えるべきだと思うので議員の定年を決めてほしい	高齢議員が長く続けると若い議員が入りづらい。世代交代で新しい視点を取り入れるため定年制が必要では
		長期在任による閉塞感や癒着を防ぎ、多様な声を取り込むため。組織の新陳代謝を促したい
③ 議員活動をサポートする環境整備	議員活動に使用できる公用車を用意してほしい（運転手などはつけなくても良い）	自治体によっては広範囲を回らなければいけない。移動コストや時間を削減するために公用車の利用が有効
		車のない人や燃料負担が大きい人には公用車があると活動しやすい。誰でも移動手段を確保できる環境が必要
	病院、レジ等全ての待ち時間をなしにできる特権がほしい	議員活動は住民対応等で忙しくスケジュールがタイト。待ち時間を削減すればその分、活動に時間を充てられる
		『議員が優遇されすぎるべきでない』という反論もあるが一方で“公務効率”を重視する人も。賛否は分かれるかも
	ストレスが溜まった時のために専属カウンセラーを用意してほしい	クレーム対応や立場上の重圧でストレスが高まることが多い。専属のカウンセラーがいれば精神面をケアしやすい
		心身が健康でないと、住民の意見を的確に反映できない。ストレスケアの仕組が議員活動の質向上につながる
	議員、議会に関心のある社会になっていてほしい	議員や議会に関心のある社会でなければ、議員をやるやりがいが感じられない